

【平成16年度専修学校先進的教育研究開発事業】

事業名	「地域社会貢献型ファッションビジネス教育システム」研究開発事業		
学校法人名	学校法人マロニエ文化学園		
学校名	マロニエファッションデザイン専門学校		
代表者	理事長 野中 翠	担当者・連絡先	校長 野中 一男

< 事業の概要 >

21世紀を迎え、専門学校を取り巻く社会環境の変化と共に、専門学校の学生に対する要望は専門技術や知識面における即戦力を持つ人材というだけではなく、社会性と人間性を重視する傾向が強くなり、特に新卒採用の場合には、入社後まもなく対外的な職務を行う機会も多くなるなど、新入社員の甘えが許される職場は皆無と言って過言ではない。

その様な厳しい社会状況の中で、ファッションスペシャリストとしての就職を可能にするためには、学校における社会経験が不可欠な要素となりつつあり、就職先企業の協力によるインターンシップ制度の導入と、学内の授業における企業とのコラボレーションによる演習が注目されている。

当研究テーマである「地域社会貢献型ファッションビジネス教育システム」は、ファッション企業の協力のもとに専門学校の学生が受講する形のインターンシップ制度の枠を地域社会まで拡大した教育手法の一つである。

その具体的な実施方法としては、第一段階として、専門学校の所在地周辺を中心に、広くは関西経済圏内の商業地域、商店街、問屋街等からタイアップの希望を募り、各研究参加校とタイアップ先の地域、施設を決定する。各校が担当する地域や施設の数や規模は各校の通常授業の妨げにならない範囲で決定し、参加校と参加地域代表者が合同で実施に関する説明会、検討会を行う。第二段階として各校と担当地域との打合せを行い、個別に実施スケジュールと内容を決定し、学生グループによる市場調査を実施し、データを分析して担当地域の問題点の抽出と課題のリストアップを行う。さらに問題点に対する改善提案をまとめ担当地域に提案する。第三段階として担当地域側は実施を希望する改善提案やイベントプラン等があれば専門学校に依頼する。専門学校側は依頼内容の実施に向けて学内の準備作業を経て、現地のリニューアルやイベントを実施する。最後に実施結果を調査し、報告書のまとめと事業成果報告会を行うというものである。

< 成 果 >

ファッションビジネスを学ぶ学生達の知識と能力はファッション分野以外の様々な小売業、卸売業などに対しても有効であることが、2003年度に経済産業省中小企業庁の提案により全国規模で実施された「中心市街地・商店街連携事業」の事例で証明されており、従来から行われてきた一般の大学と商店街等のコラボレーションでは得られなかった現代感覚溢れる企画提案と実施内容をファッション専門学校の学生達が実行し得たことは、ファッション業界のみならず一般商業施設から

も注目を集める結果となった。

当「地域社会貢献型ファッションビジネス教育システム」研究開発事業では、研究担当の3校周辺地域を中心として、大阪市から豊中市にかけての大阪府北部全域をカバーする社会貢献事業として企画し、実行することとなったが、3校の周辺地域住民や商業施設と学生が直接会話し、様々な改善企画の提案と実施を行った結果、研究終了後も同様の授業展開を望む声が高まる等の効果があった。当研究事業に参加した3校が担当した4地域に関してはそれぞれ異なったビジネス環境でありながら、すべて活性化が望まれる状況あり、地理的に担当の3校から近いという利点があったことから、専門学校とのコラボレーションが実現したのであるが、これら4地域の事例は、同様の地域社会貢献型教育を行う際に予想されるケースとして大いに参考となるものである。

## 1 特定の小売業、卸売業などの商業施設、組合とのコラボレーション

分科会 A・マロニエファッションデザイン専門学校と新大阪センイシティーとの取り組みがこれに相当する。

(内容)マロニエファッションデザイン専門学校ファッションビジネス学科2~3年生が担当。新大阪センイシティーの特徴である、直販志向と卸売志向を持った店が混在するという業態の現状を踏まえ、市場調査・活性化提案とともに、それぞれに向けた活性化提案を実施。さらに具体的な提案を 短期的計画案 中期的計画案 長期的計画案の3段階に分け、ミクロの視点で捉えた身近な改善から、将来を見据えたマクロの視点まで段階的に考察し実施及び提案を行った。

短期提案として、

- ・ファッションショーイベントの実施

- ・ウィンドウディスプレイ改善

新大阪センイシティー内の協力店舗から衣装を借り、学生のコーディネート提案をショー形式で発表。

また、空ウィンドウを利用し学生がディスプレイを実施。クリスマス商戦の販売促進の一助となる。

- ・販促ホームページの制作

新大阪センイシティー内の商品のコーディネート提案を学生がホームページとして制作し、インターネットで公開。Eコマース導入の実験を行う。

- ・店舗改装の実施

協力店舗の店頭レイアウトを学生が改善することにより、売り上げの向上につなげるための実験的試みとして実施。

中期提案として、卸売販促提案、MD提案の実施

長期計画として、フードコート設置提案、新規店舗誘致提案の実施 など

## 2 学校周辺地域の商業圏調査と提案

分科会 A・マロニエファッションデザイン専門学校と天五中崎通商店街および中崎町周辺地域との取り組みが相当する。

(内容) マロニエファッションデザイン専門学校ファッションビジネス学科1年生が担当。リサーチ、アンケート調査を重ね、背景分析・現状分析を行い今後の方向性を探る

- ・コンセプトの構築。街づくり計画のキーワードとして「五感をくすぐる商店街」、販売促進計画のキーワードとして「friendly」を設定、提案
- ・天五・中崎通商店街ウォーキングマップ、中崎町ウォーキングマップ制作
- ・天五中崎通商店街手作りガイドブックの制作  
ITを活用し、店舗の種類により色分けするなど地域をわかりやすく紹介街を楽しむためのガイドとしての工夫を凝らした。(サンプル出力)
- ・天五中崎通商店街、中崎町周辺巨大マップの制作  
重要な商店を立体物として表現し、見て楽しいマップを作成。

### 3 学校周辺地域の地方自治体、商店組合、個々の店舗とのコラボレーション

分科会B・大阪文化服装学院と豊中市、豊中駅前まちづくり組織さらに個店との取り組みが相当する。

(内容) 大阪文化服装学院では隣接する大阪府豊中市とタイアップし、豊中駅前まちづくり会社主催の地域商業起業塾「あきんD0クラブ」へ支援の要請があり、支援サポーターのひとつとして参画。支援サポート内容に応じて事業支援先を次の3店舗に決定した。

- 子供服・雑貨「BABY BLUE」(豊中市 本町)
  - ・布製オリジナルバッグ企画・作成  
オーナーの要望を反映しコストを意識した商品を製作。
  - ・販売促進(スタイリングショー、販促グッズ提案)  
実際に店舗で販売される春夏商品を使用して販売促進のショーを実施。
  - ・学生によるプロデュース型ショップの提案  
店舗の現状分析や競合店の分析に基づいた、プロデュース型店舗の提案を実現。
- 蒲鉾製造販売「服部かまぼこ」(豊中市 服部西町)
  - ・商品の販路開拓と売上強化。
  - ・商品パンフレットの作成  
プロカメラマンの指導も受けながら実際の商品を使用して、カタログ風の商品パンフレットを作成した。
- 飲食・洋菓子製造販売「丸新」(豊中市 中桜塚)
  - ・宴会場でのイベント企画提案及び実施。  
地域住民を対象にした、ケーキのデザイン画コンテストとバイキングを企画、実施した。

### 4 学校周辺地域の商業施設、組合、企業とのコラボレーション

分科会C・上田安子服飾専門学校と茶屋町、北梅田地区まちづくり協議会との取り組みが相当する。

(内容) 上田安子服飾専門学校では学校の地元である茶屋町地区を中心とした地域活性化プログラム企画を提案。各提案を実施するために学内体制作りと北梅田地区まちづくり協議会・店舗経営者との打ち合わせ懇談会等を頻繁に行い、茶屋町境界の現状を把握することを第一歩として取り組みを行った。

・茶屋町進化ファッションショー

・茶屋町トレンドスタイリングショー

第1部はスタイリストコース、メイクヘアアーティストコース学生による茶屋町発信トレンド提案スタイリングショーの実施。第2部はデザイナー大江瑞子作品によるウェアラブルファッションショー、第3部としてファッションクリエイター学科学生と教員作品によるファッションショーを実施。茶屋町で最も人が多く行き交う梅田コマ劇場前でイベントを通じて町を活性化させる狙い。

・茶屋町周辺イラストマップ企画制作

茶屋町の知名度向上と魅力を多くの人に伝えることを目的にイラストマップの制作と配布を実施。ショップや街頭のアンケートを通して実情を把握。「茶屋町街道絵巻」として歴史と今というテーマに沿って和風にこだわり持ちやすさも考慮して屏風をイメージした蛇腹折りにした。ショップの紹介だけでなく、見て楽しんでもらえる内容とした。

・オリジナルUSED SHOP 「TENSE」の展開

茶屋町プロモーションイベントとして、学生主催のショップを期間オープン。完売商品もでるなど好評を得た。

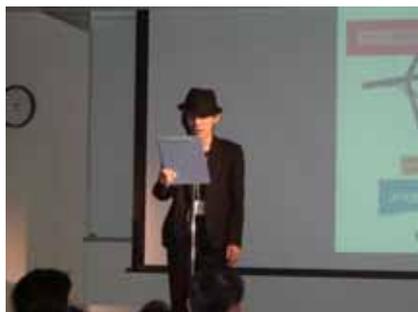
3校による4地域との取り組みは、対象とする地域や組合、企業などの利害や構成メンバーの思惑などが複雑に絡み合い、必ずしも両者が諸手を挙げて歓迎し合うケースばかりではないが、授業の範囲内で可能な知識と技能を最大限に活用して、1年1年の成果を積み上げることが、専門学校と学生達、地域社会と住民や従業員ら全てにプラスになることを確信する。

<社会に開かれた専門学校教育の一環として、周辺地域の商店街、問屋等の活性化を目標とする「地域社会貢献型ファッションビジネス教育システム」を開発し実験運用を行う。ファッション分野専門学校生による市場調査と改善プランの提案、実施により、地域社会貢献と実学としてのファッション演習の両立を目指す>という事業計画書の事業概要に記した内容以上に、在阪のファッション専門学校3校が共同で実施した当研究事業は、ファッションの概念を地域社会全体に拡大して応用し、その知識と技能を最大限に活用するという大きな成果を得ることができた。3校それぞれの地域社会とのコラボレーションのあり方や、手法、成果発表の内容などをまとめた別冊の事業成果報告書を参考にされて、全国規模の社会貢献型ファッションビジネス教育が普及することを望むものである。

## < 事業成果報告会 >

平成 17 年 3 月 12 日 (土) マロニエファッションデザイン専門学校で開催。各分科会から学生のプレゼンテーションも含めて、事業成果を発表。その後、パネルディスカッションとして、連携先側と学校側双方の立場から「地域社会貢献型教育」の意義や成果、問題点、今後の展開と課題について討論を行った。今回の取り組みにより明らかになった種々の課題について双方とも協議を深め、産学双方にとってさらにメリットをもたらすものへと進化させるべく、今後とも前向きに取り組みを継続していくことで合意がなされた。

### 分科会 A マロニエファッションデザイン専門学校の事業成果報告



### 分科会 B 大阪文化服装学院の事業成果報告



### 分科会 C 上田安子服飾専門学校の事業成果報告



### パネルディスカッション 「今後の地域社会貢献型教育のあり方」

